

平成 30 年度事業報告

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

1. 会 員

会員状況(平成 31 年 3 月 31 日現在)は、次のとおりである。

会員種別	既往数	入会数	退会数	計
正 会 員	4,704	418	480	4,642
特別会員	1,554	9	3	1,560
名誉会員	34	3	2	35
計	6,292	430	485	6,237

2. 会議の開催

(以下、敬称略)

1. 第 72 回定時総会

平成 30 年 6 月 15 日、東京都港区「発明会館ホール」で開催、議決権のある当協会の会員総数 6,260 名のうち出席会員数(委任状による者を含む。)3,655 名が出席、「平成 29 年度事業報告」、「平成 29 年度決算」を承認し、「理事の選任」、「名誉会長の選任」を行い、各候補者全員が選任された。のち、「平成 30 年度事業計画書」、「平成 30 年度収支予算書」及び「平成 30 年度資金調達及び設備投資の見込み」について報告が行われた。

2. 理 事 会

(1)第 202 回を平成 30 年 5 月 15 日、東京都千代田区「尚友倶楽部会議室」で開催、理事 37 名のうち出席者 23 名、監事 2 名が出席、「平成 29 年度事業報告」、「平成 29 年度決算」、「理事の選任」、「顧問の委嘱」、「名誉会長及び名誉会員の推薦」、「第 72 回定時総会の招集の決定の件」について原案のとおり議決した。

(2)第 203 回理事会を平成 30 年 6 月 15 日、東京都港区「発明会館会議室」で開催、理事 39 名のうち出席者 30 名、監事 2 名のうち 1 名が出席、会長、副会長の選定について審議し、会長に宮田年耕、副会長に西田義則及び金井道夫を選定した。なお選定された宮田年耕は、席上、会長の就任の承諾をした。業務執行理事の選定について審議し、業務執行理事(総務委員長)菊川滋、業務執行理事(国際委員長)深澤淳志、業務執行理事(広報委員長)澤田和宏、業務執行理事(技術交流委員長)徳山日出男、業務執行理事(事務局統括)和田浩について原案のとおり議決した。

(3)第 204 回理事会を平成 30 年 11 月 21 日、東京都千代田区「日本道路協会会議室」で開催、理事 39 名のうち出席者 22 名、監事 2 名が出席、「新年交礼会の開催」、「会員の入会」について原案どおり議決した。

なお、理事会開催後に村山一弥(国土交通省道路局企画課長)を講師に「道路懇話会」を開催した。

(4)第 205 回理事会を平成 31 年 3 月 27 日、東京都千代田区「日本道路協会会議室」で開催、理事 39 名のうち出席者 28 名、監事 2 名のうち 2 名が出席、「平成 31 年度事業計画書及び収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込」、「会長奨励賞の表彰」及び「会員の入会」について原案どおり議決した。

なお、理事会開催の後に山本巧(国土交通省道路局高速道路課長)を講師に「道路懇話会」を開催した。

3. 名誉会員等の異動

下記の異動があった。

名誉会員 山 根 孟 (平成 30 年 7 月 17 日死去)

名誉会員 岡 上 忠 夫 (平成 31 年 2 月 24 日死去)

4. 調査・研究事業

交通工学委員会 道路構造規格小委員会 地域道路規格小委員会 交通安全小委員会 道路標識WG 防護柵 WG	舗装委員会 舗装マネジメント小委員会 環境・再生利用小委員会 舗装性能評価小委員会 舗装設計施工小委員会
橋梁委員会 橋梁総括構造小委員会 英文示方書WG 鋼橋小委員会 コンクリート橋小委員会 下部構造小委員会 耐震設計小委員会 維持管理小委員会	道路土工委員会 擁壁工 WG 排水工 WG 落石対策検討WG 維持管理 WG
	トンネル委員会 トンネル維持管理小委員会 トンネル附属施設小委員会 トンネル設計・施工小委員会
	道路震災対策委員会
	道路維持修繕委員会

5. 成果の提供・普及事業

1. 図書(36点・64,200部)

(1) 道路技術者の一層の利便に資するため、調査委員会等の成果を踏まえ、次のとおり新刊・改訂図書を発行した。また、既刊図書の増刷を行った。

新刊・改訂(8点・25,200部)

平成29年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例	【新刊】	6,500部
舗装点検要領に基づく舗装マネジメント指針	【新刊】	3,000部
道路土工構造物点検必携(平成30年版)	【新刊】	2,000部
道路の維持管理	【新刊】	1,000部
アスファルト舗装要綱(英語版)	【新刊】	600部
道路政策の変遷	【改訂】	2,000部
道路橋支承便覧	【改訂】	8,100部
道路データブック2018	【改訂】	2,000部

増刷(28点・39,000部)

立体横断施設技術基準・同解説		500部
視線誘導標設置基準・同解説		500部
駐車場設計・施工指針同解説		500部
道路緑化技術基準・同解説(改訂版)		500部
防護柵の設置基準・同解説(平成28年改訂版)		2,000部
道路橋床板防水便覧		1,000部
道路橋点検必携～橋梁点検に関する参考資料～		2,000部
道路橋示方書・同解説Ⅰ共通編(平成29年11月)		5,000部
道路橋示方書・同解説Ⅱ鋼橋・鋼部材編(平成29年11月)		2,000部
道路橋示方書・同解説Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編(平成29年11月)		2,000部
道路橋示方書・同解説Ⅳ下部構造編(平成29年11月)		3,000部
道路橋示方書・同解説Ⅴ耐震設計編(平成29年11月)		3,000部
舗装の構造に関する技術基準・同解説		300部
舗装設計施工指針(平成18年版)		1,000部
舗装施工便覧(平成18年版)		1,000部
舗装調査・試験法便覧<全4分冊>		500部
舗装の維持修繕ガイドブック2013		1,000部
コンクリート舗装ガイドブック2016		500部
舗装点検必携(平成29年版)		2,000部
道路土工-仮設構造物工指針		2,000部
道路土工要綱(平成21年版)		1,000部

道路土工-切土工・斜面安定工指針(平成 21 年度版)	2,000 部
道路土工-盛土工指針(平成 22 年版)	1,000 部
道路土工-軟弱地盤対策工指針(平成 24 年度版)	1,000 部
道路土工-擁壁工指針(平成 24 年版)	1,500 部
道路土工構造物技術基準・同解説	1,000 部
落石対策便覧(平成 29 年改訂版)	1,000 部
道路トンネル技術基準(構造編)・同解説	200 部

(2) 図書の販売状況は、以下のとおりである。

(単位:部)

年度	期首在庫	増刷等	販売等	期末在庫
29 年度	44,998	116,900	110,670	51,228
30 年度	51,228	64,200	70,194	45,234

2. 月刊誌「道路」の発行

月刊誌「道路」は、道路に関する幅広い情報の提供を心がけ、会員ならびに読者のニーズに応えるべく道路技術や道路行政の最新動向を特集掲載した。また、平成 29 年度に引き続き、地方創生の核となる「道の駅」の先駆的な取り組み紹介等、情報誌として内容の充実を図り、平成 30 年 4 月号から平成 31 年 3 月号まで延べ 100,800 部を発行した。

3. 講習会等の開催

(1) 講演会の開催

平成 30 年 6 月 15 日、東京都港区「発明会館ホール」において総会終了後講演会を開催した。

演題 「自動運転の現状と展望」

講師 鎌田 実(東京大学大学院教授)

(参加者 199 名)

(2) 道路関係予算説明会

村山 一弥(国土交通省道路局企画課長)を講師に次のとおり説明会を開催した。

平成 31 年度道路関係予算概算要求説明会

(平成 30 年 9 月 14 日・東京)

(参加者 169 名)

平成 31 年度道路関係予算説明会

(平成 31 年 2 月 14 日・東京)

(参加者 151 名)

(3) 地区道路講習会

道路橋に関する講習会

『道路橋示方書・同解説』の発刊に伴い、昨年、全国で開催した講習会のさらなる要望を踏まえ、大阪で追加開催した。(開催日 7 月 27 日 参加者 202 名)

舗装に関する講習会

『舗装点検要領に基づく舗装マネジメント指針』の発刊に伴い、本書籍の理解と適切な運用を図るため、次のとおり開催した。(参加者 953 名)

開催日	開催場所	参加者	開催日	開催場所	参加者
1月15日	東京	248名	2月7日	大阪	123名
1月17日	高松	44名	2月13日	仙台	122名
1月22日	広島	74名	2月19日	新潟	34名
1月29日	名古屋	102名	2月26日	札幌	106名
2月1日	福岡	100名			

(4)道路政策に関する講演会

平成30年4月11日、東京で開催した。(参加者 171 名)

演題 「自転車の活用の推進について」

講師 奥田 秀樹(国土交通省道路局自転車活用推進官)

演題 「暮らし社会の課題解決に自転車を活用する時代」

講師 楠田 悦子(モビリティジャーナリスト)

平成30年9月27日、東京で開催した。(参加者 181 名)

テーマ:スマートシティの実現に向けて

演題 「道路・交通の周辺から考えるITSの未来

～ITSの進化は都市・地域空間をどのように変貌させるか?～」

講師 清水 哲夫(首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授)

演題 「新たな交通ターミナルの実現に向けて～道・駅・街が一体となった未来空間の創出～」

講師 水野 宏治(国土交通省道路局企画課評価室長)

平成30年11月19日、東京で開催した。(参加者 183 名)

テーマ:「新・道の駅」～四半世紀を超え、次なるステージへ～

演題 「「道の駅」のはじまるまで」

講師 徳山 日出男(日本道路協会業務執行理事)

演題 「新・道の駅～これまでの成果の最大活用のために～」

講師 石田 東生(日本大学特任教授 筑波大学名誉教授)

演題 「道の駅の近未来～産学官連携によるイノベーションの実現～」

講師 水野 宏治(国土交通省道路局企画課評価室長)

平成31年1月29日、名古屋で開催した。(参加者 271 名)

テーマ:「中部地方の未来とインフラ」

演題 「移動イノベーションがもたらす車・道・地域の変化」

講師 森川 高行(名古屋大学未来社会創造機構教授)

演題 「道路行政を取り巻く最近の情勢」

講師 野田 勝(国土交通省道路局環境安全・防災課長)

平成 31 年 3 月 26 日、東京で開催した。

(参加者 253 名)

テーマ:「インフラ投資の新時代」

演題「今後のインフラ投資の方向性」

講師 徳山 日出男(政策研究大学院大学客員教授)

演題「モビリティ革命と次世代インフラ投資～海外の動向～」

講師 牧村 和彦(一般財団法人計量計画研究所理事)

演題「新たな広域道路交通計画と官民連携プロジェクト」

講師 田村 央(国土交通省道路局企画課道路経済調査室長)

4. 第 33 回日本道路会議の準備

日本道路会議実行委員会

委員会 2 回、幹事会 3 回開催し、第 33 回日本道路会議は、平成 31 年 11 月 7 日、8 日の 2 日間、東京平河町の都市センターホテルで開催することとし、「政策」「国際」「実務交流」「専門技術」の 4 つのグループ構成で実施することとした。

日本道路会議論文・企画委員会

委員会 1 回、幹事会 3 回開催し、グループごとの今後の諸準備について審議した。

「政策」「国際」「実務交流」グループにおいては、セッションの方向性等について検討し、「専門技術」グループでは、論文・事例報告募集の主要課題を決定・周知した。

5. 道路広報

道路への理解と普及のため、次の道路広報活動を実施した。

(1) 道路整備に対するニーズの把握と理解の普及に向けた広報啓発活動

- 1) 道路関係資料等の保存・活用システムを構築し、今後必要なデータを適宜利用できる環境整備を前年度に引き続き実施した。
- 2) 会員ならびに道路関係者に対する最新の情報提供を行うため、ホームページの改善を適宜行った。
- 3) 道路に関するデータを集約した書籍「道路データブック 2018」を発刊した。

(2) 国民参加型広報への協力

「道路ふれあい月間」等への協賛を行った。

6. 国際協力事業

国際委員会において、PIARC、IRF、REAAA などの国際機関への参画における官民のとりまとめ役として、また道路関連産業や道路技術の海外展開を支援する道路協会の機能強化、協会会員への国際活動成果の還元を運営方針として、以下の事業を実施した。

1. 国際会議への派遣など

(1)PIARC(World Road Association:世界道路協会)

① 実行委員会・総会等

平成 30 年 4 月 23 日から 25 日の間にメキシコ・カンペチェ市で開催された実行委員会等に、当協会理事の菊川滋ほか関係者が出席し、各国の関係者と情報交換、意見交換を行った。

② 横浜会議

平成 30 年 10 月 22 日から 26 日の間に横浜市で総会・実行委員会ほか関連会議を開催した。これらの会議の日本開催は初となる。一連の会議を通して、当協会長の宮田年耕、菊川滋、国土交通省事務次官の森昌文、同省道路局長の池田豊人、横浜市長の林文子ほか多くの関係者が出席し、各国からの参加者を歓迎するとともに情報交換、意見交換を行った。

総会ディベートでは、首都高速道路株式会社執行役員の土橋浩をモデレーターとして、「道路メンテナンスの新技术活用」をテーマに、9 か国による発表、意見交換を行った。我が国からは国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部長の木村嘉富が、日本における道路管理への新技术活用について基調講演を行った。

国内委員会会議では、当協会理事・国際委員長の深澤淳志が日本国内委員会である当会の役割や事業について発表し、各国出席者と情報交換、意見交換を行った。

③ 技術委員会

PIARC 技術委員会は 4 年毎のタームで活動を行っている。平成 28 年に開始した現タームには道路および道路交通に関する 22 の技術委員会等が設置され、我が国からは 15 の委員会等に参画し道路技術に関する情報交換、共同研究等を行っている。

これらの委員会活動の成果を国内に還元するため、平成 30 年 7 月 20 日に技術委員会活動報告会を開催した。報告会では各委員会活動の報告とともに、PIARC 活動全般について紹介し、国内道路関係者と意見交換を行った。

また、国内における PIARC 活動成果の共有および委員会活動の活性化を図るため、技術委員会活動報告を月刊誌「道路」へ継続的に掲載した。

④ PIARC 道路統計プロジェクトの推進

我が国主導のもと推進してきた PIARC 道路統計プロジェクトの成果として、PIARC 道路データブックを発行した。また本プロジェクトを PIARC の継続的活動に位置付けるため、道路統計委員会の設立を推進した。

⑤ 本部事務局への技術者派遣

本部事務局の要請に基づき、東日本高速道路株式会社から技術者 1 名を派遣した。

(2)IRF(International Road Federation:国際道路連盟)

① IRF 奨学基金への協力および IRF 奨学生の推薦

関係機関からの賛助を得て IRF 奨学基金に協力をを行った。

IRF 奨学生を募集し、選考の結果、日本から 3 名を奨学生として IRF へ推薦した。

② IRF 奨学生帰国報告会および月刊誌「道路」への報告掲載

平成 30 年 6 月 22 日に IRF 奨学生帰国報告会を開催し、IRF 奨学生制度の意義や IRF 活動について情報交換、意見交換を行った。また、国内における本奨学生制度の理解促進を図るため、月刊誌「道路」に帰国報告を掲載した。

③ IRF ラスベガス大会

平成 30 年 11 月 7 日から 9 日の間にアメリカ・ラスベガス市で開催された IRF ラスベガス大会に当協会 IRF 分科会長の渡口潔ほか関係者が参加し、情報交換、意見交換を行った。また、「道路の老朽化対策－舗装と橋梁－」をテーマに日本セッションを開催し、日本の最新技術について発表を行った。

(3) REAAA (Road Engineering Association of Asia and Australasia:

アジア・オーストラレーシア道路技術協会)

① 評議員会

平成 30 年 5 月 2 日にオーストラリア・ブリスベン市で開催された第 108 回評議員会および、同年 10 月 30 日にマレーシア・クアラルンプール市で開催された第 109 回評議員会に、当協会を代表して REAAA 分科会長の橋場克司ほか関係者が出席し、各国の関係者と情報交換、意見交換を行った。

② PIARC との協働

平成 30 年 11 月 7 日から 8 日の間にベトナム・ハノイ市で開催された PIARC セミナーに橋場克司が参加し、REAAA と PIARC の協働を推進した。

③ 技術小委員会

技術小委員会の再構築が図られた結果、日本が主導となり舗装委員会を設立、活動を開始することとなった。

2. 海外留学生研究援助

「海外道路研究基金」による援助金支給者募集の結果、応募者なしのため支給は行わなかった。

3. その他

① 第 5 回国際橋梁シンポジウムへの協力

平成 30 年 11 月 20 日に開催された国際橋梁シンポジウムの共催団体として協力をを行い、国際交流の推進を図った。

② 協力協定に基づく交流活動

平成 31 年 1 月 18 日から 19 日の間にインドのニューデリー市で開催されたコンクリート舗装に関する国際セミナーに菊川氏ほか関係者が出席した。当協会の活動や日本の舗装技術について発表し、各国参加者と情報交換、意見交換を行った。

4. 国際アスファルト舗装会議

平成 31 年 1 月 13 日、米国において開催された ISAP (国際アスファルト舗装学会) 技術委員会報告会に関係者を派遣し、日本の舗装リサイクル技術の研究と舗装騒音の測定と評価について発表を行った。

7. 表彰その他事業

1. 道路功労者の表彰

道路整備事業の推進並びに道路愛護・美化保全等に尽力された団体および個人に対して、各都道府県、政令指定市、国土交通省各地方整備局、北海道開発局、各高速道路会社、一般社団法人日本道路建設業協会、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会及び一般社団法人日本橋梁建設協会の推薦を得て、101 団体ならびに個人 66 名の方々を 8 月 10 日「道の日」に表彰した。

2. 会長奨励賞の表彰

自らの創意工夫を加え、その後の業務遂行に多大な成果をあげた者を表彰し、道路技術の進展に寄与することを目的とし、3 件(個人 3 名)を決定し、第 73 回定時総会において表彰することとした。

3. 公益事業協力

(1)「道路技術講演会」の開催

一般社団法人 近畿建設協会との共催により「道路技術講演会」を開催した。

開催日、場所、参加者数:平成 30 年 12 月 4 日、豊岡市、180 名

講演科目:講演1)「道路構造物のメンテナンスセカンドステージへ」

講演2)「自治体における持続可能な橋梁マネジメントの取り組み」

講演3)「豊岡市のまちづくり道路整備」

(2)「道路技術勉強会」の開催

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会近畿支部との共催により「道路技術勉強会」を開催した。

開催日、場所、参加者数:平成 30 年 6 月 6 日、大阪市、333 名

第 20 回記念シンポジウム

基調講演:「インバウンド 6000 万人時代のインフラ」

パネルディスカッション:「関西の明日を創造するために～将来へ向けてのプロジェクト～」

開催日、場所、参加者数:平成 30 年 9 月 21 日、大阪市、46 名

講習科目:「観光地域づくりを通じた観光先進国の実現」

「歴史資産をいかした国営公園」

開催日、場所、参加者数:平成 30 年 11 月 22 日、大阪市、48 名

講習科目:「これからの自転車の活用について」

「堺市における自転車利用環境向上への取り組み」

開催日、場所、参加者数:平成 31 年 2 月 1 日、大阪市、79 名

講習科目:「国土強靱化基本計画の見直しについて」

「近畿地域における最近の国土強靱化計画について」

(3)「地方会員との意見交換会」の開催

地方会員のニーズを把握し、協会活動及び組織基盤の充実に資するため、平成 31 年 1 月 29 日に名古屋市において中部地方の県・市の地方会員をはじめとする 24 名の参加により「地方会員との意見交換会」を開催した。

- (4)内閣府等の主催により実施された平成 30 年度「春及び秋の全国交通安全運動」に協賛
- (5)全国道路利用者会議、道路整備促進期成同盟会全国協議会の定時総会、全国大会等の開催への協力